



上手な野菜の育て方

ホウレンソウ



①栽培時期

● 種まき ■ 収穫



②栽培上の注意点

- ①生育の適温は15～20℃で、やや低い気温を好む。10℃前後までは良く生育するが、暑さに弱く、25℃以上になると発芽率が下がる。
- ②土質は特に選ばないが、耕土が深く水はけの良い砂壌土が適する。また、酸性土壌に弱いので、石灰を施してアルカリ性土壌に矯正する必要がある。
- ③ホウレンソウは、寒さにあたると甘さが増してくるので秋まきをお勧めします。

③畝づくり

種まきの10日前には基肥を施し、深く耕うんして畝立てをする。排水の良い畑では平畝でよいが、水田は排水も悪いので、80～100cmの畝をつくり、2～3条まきにする。なお、排水の悪い圃場程高畝にする。

④種まき・間引き

種は、1㎡当たり20ml程で、まき方には、芽出しまきとからまきとがある。家庭菜園では、秋～春まきは、からまきにし、まき床に前もって十分灌水し、種まき後、覆土して軽く鎮圧し、土と種とを密着させる。芽出した場合は特に乾燥に注意する。間引きは、本葉が出始めた頃、特に密生している所を間引き、本葉4枚頃、2回目を行って1㎡当り100～150株残す。

*注意

ホウレンソウを春まきされる場合は、とう立する恐れがあるので、春まき用品種をお勧めします。

⑤本田肥料

畝立て時に基肥として3.3㎡(1坪)当り牛糞堆肥(完熟堆肥)5kg、苦土セルカ(石灰質肥料)600g、あさひ化成S602号(化成肥料)300gを施し、畝づくりをする。

追肥は、双葉が展開し、本葉が出始めの頃に1回目を施し、2回目は、本葉4枚の頃に施す。いずれも、あさひ化成S602号(化成肥料)をそれぞれ150g条間に施す。

⑥灌水

発芽直前までは、十分灌水して発芽を揃える。発芽後、本葉4枚展開するまでは、立枯病予防のため灌水を控え目とする。その後、適度の水分を持たせる。

⑦収穫

収穫は、草丈が20cm～25cmくらいになれば、大きいものから収穫する。

⑧病虫害防除

病気では苗立枯病、株腐病、べと病の発生がある。苗立枯病・株腐病の防除は、排水を良くするとともに、地際部を過湿状態にしないことが大切である。べと病の防除は、厚まきや多肥栽培をしないことが大切である。

ヨトウムシ

アフファーム乳剤 2000倍 収穫3日前まで使用可能 総使用回数2回